

## こどものイス

環境建築家

東京工業大学名誉教授 仙田 満



建築家にとって、イスという存在はとても重要です。建築という空間には必ずイスがあります。よくデザインされたイスはそれだけで空間が引き締まります。しかし歳をとると、イスの形よりも、座り心地が大切であることを体で知ります。孫がもうすぐ1歳を迎え、イスが必要になってきたので、40年以上前にデザインしたイスを持ち出して、座らせています。そのイスは息子が2歳の時に、私がデザインしたもので、小象の形に似ているので、“コゾウ”と名付けました。まだ1歳にならない孫には少し座が高く、足が床に届きません。

デザインした当時には、高さを3段階調節できるようにしましたが、素材を木としたため、強度をもたせるために少し重くなってしまいました。その後こどもが持って歩くことができるように、軽くて丈夫なものに改良しましたが、高さを調節できるようにするとイスの背に切り込みを入れなくてはいけないため、その強度が弱くなってしまいます。そこでイスの高さを固定し、1歳用、3歳用、5歳用と高さの違うイスとなりました。今、孫が使っているのは、1歳用が品切れのため、3歳用のイスです。

この“コゾウ”は手摺付なので、座ると安定感があります。そのため小さなこどもに適しています。しかし、手すりがあると積み重ねることができません。この20年ぐらい、多くの保育園や幼稚園の設計に携わり、その中で、こどもたちが一緒に行動し、生活するためのイスが要望されました。イスを積み重ねられるようにしないと保育室の使い勝手が悪くなります。そこでスタッキングという、積み重ねられるようにしたイスを開発しました。アカンベーのベアに似ているので、“ベアチェア”と名付けました。3歳以上のこどもが使うイスとして、多くの

幼稚園で使っていただいています。この“ベアチェア”も“コゾウ”同様、木製です。

私は座面の硬さがこどもの行動にどのくらい影響するのか、知りたいと願っています。高齢者はよりやわらかい座面を好みます。硬い座面には長く座ってられません。私の記憶では、小学校のイスは木製でしたが、「おしりが痛い」とか「長く座ってられない」といった思い出はありません。そもそもこどもが何時間も座っているということはありません。年齢が低ければ低いほど、じっとしていません。でも、形、高さ、大きさ、硬さなど、こどもに何らかの影響があるのではないかと考えています。

かつてドイツの幼稚園を訪れたとき、大きなソファが置かれていることに感心しました。こどもにとって身体が沈みそうな、ふわふわなソファは特別なイスです。こどもの心と身体を解放するでしょう。幼稚園は学校というより、家庭に近い空間ですから、様々な形、硬さのイスが置かれる必要があります。イスはこどもにとってただ座るだけの場所ではなく、その上に立てば高い場所ですし、ある時は跳び箱、ある時はテーブルにもなります。1つのイスから様々な行動が広がっていきます。いろいろなイスがあれば、自分のお気に入りのイスを選ぶこともできます。イスは小さな個性を発揮できる場でもあります。

最近、私は恩師の愛用していたイスとテーブルを形見としていただきました。そのイスに座って、スケッチをしたり、文章を書いたりしていると、時々恩師を思い出します。

小さなこどものイスはある意味で、元気で創造的なこどもに育ってほしいと願う最初の空間かもしれません。